

## 海外投融資情報財団(JOI)について

海外投融資情報財団(JOI)は、我が国企業の海外直接投資の動向、海外におけるエネルギー・インフラ・資源開発、新興国の投資環境とビジネス機会等に関する情報を、当財団が主催するセミナー、調査研究、ビジネス情報誌やウェブサイトを通して、会員企業および一般の皆さまに提供します。かかる活動を通して会員相互の情報の交流、ネットワーク拡大を図り、我が国企業の海外直接投資・国際ビジネスの促進に寄与します。

**設立** 1991年12月16日(大蔵大臣認可):国際協力銀行(当時、日本輸出入銀行)・商社・製造業企業、公益事業会社、金融機関等170社の出捐により設立  
2010年11月1日(一般財団法人移行)

**会員** 本邦主要メーカー、建設・エンジニアリング会社、商社、通信・電力・ガス会社、金融機関、内外弁護士事務所、会計事務所、コンサルティング会社、各国大使館等約200先

### 会員制度(賛助会員)のご案内

JOI法人会員にご入会いただきますと、以下のようなサービスを受けることができます。

法人会員は、ご所属の社員の方であれば、利用人数制限なく以下サービスを利用可能です。

- (1) 当財団が主催/共催、後援するセミナー(年間100件程度)への無料招待(但し、特別講座(有料)は除く)
- (2) 会員と当財団によるセミナー共催/ウェブ・セミナーの開催・運営アレンジメント
- (3) ビジネス情報誌『海外投融資』(隔月発行)の配付
- (4) 当財団ウェブサイト上、会員限定公開となっているセミナー動画・プレゼン資料、ビジネス情報誌『海外投融資』(デジタル版)記事、レポート等の閲覧
- (5) 受託調査(独自のネットワーク活用による情報収集を通じた報告書の作成)(有料)
- (6) 「国際金融機関便覧」(冊子)、特別講座(有料)、法人向け研修サービスなど会員価格での購入・申込可能

## 海外投融資

Vol.33 No.1 (通巻193号)  
2024年1月25日発行

発行

一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人

東浩

〒102-0073

東京都千代田区九段北二丁目  
3番6号 九段北二丁目ビル

TEL. 03-5210-3311(代)

URL. www.joi.or.jp

制作協力

(株)エディポック

\*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.  
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan



## 九段だより 初春にたなびく彩雲

日本の正月におけるトップクラスの寺社の初詣の人出は300万人前後で、昭和との対比でさまざまな生活様式が変わってきた令和においても、初詣は変わらず正月の風物詩のようです。神楽、破魔矢、おみくじ、絵馬などが典型的な風景ですが、大きな絵馬かと思いき、立ち止まり、目を凝らすと、和算の問題が記述された算額であったりします。

算額は1600年代後半には奉納され始めています。算額の流行には、大坂夏の陣から約10年後の1627年に吉田光由が出版した数学書「塵劫記」が大きく影響しています。海賊版が出回るほどの人気でしたが、学問の質の低下がみられ始めたことから、吉田光由がその対策として「遺題継承」として解法を記載しない問題「遺題」を掲載した改訂版「塵劫記」を1641年に出版したとのことです。解法発見者が解法を出版する際に、巻末において「遺題」を出す「遺題継承」を通じて日本の数学の水準が上がったといわれています。問題の発案、解法の発見を寺社に算額として発表するという自尊心をくすぐる教育システムも並行して広まりました。

このような和算の黎明期は、ヨーロッパにおけるガリレオ・ガリレイやニュートンなどによる科学の体系化の進展と同時期であり、戦国時代が終焉し、江戸時代における治世の安定の継続がもたらした教養文化のおかげで、日本は江戸時代末期から明治維新を経て急成長し、西欧諸国に出遅れない素地ができた

と理解しております。

和算が建築土木、稲作等農業、米・繊維の商取引などの江戸

時代において発展した各産業の「現場」での能力発揮に資する修養であったことも普及の一要素と考えられます。現代でも数学をはじめとした科学知識の涵養及び活用が「現場力の向上」と結びつきます。知識体系に基づく判断軸やDX等で提供されるITツールが、建設・製造などの有形業務の「現場」、プレゼン、交渉、取引など無形業務の「現場」での活用が重要な視座になり、中核事業、新領域事業の「現場力」にどのように資する連携ができるかが、知識・ツールを企画するミドルセクションの取り組み目線になります。

選挙Yearである2024年は政権・政策の趨勢を巡り、各国、各局面で混乱が生じそうです。一方、主要機関公表の経済成長率予想は、2023年比でわずかな減速です。政治混乱が経済活動に波及しないこともあり得、適温経済における経済ネットワークの再構築は、2025年でのさらなる成長の足掛かりになると思われれます。かような再構築での「現場力の向上」への支援がJOIのような組織の役割と考えます。

十二支の中で辰だけが架空の瑞獣の干支ですが、長い歳月をかけ、国境を超えて個々の想像力が集積・統合された、ゆるやかなイメージの共有化がなされているように感じられます。平和の配当を享受してきた日本経済の視点では、かの瑞獣の姿のイメージ組成に似て、歳月をかけつつもグローバルな価値観の共有化の進展を期するところです。

専務理事 東浩

(注) 算額など和算に係る記述の出典:

小寺裕,『江戸の天才達が開花させた和算の魅力に迫る!』,  
(C&R研究所, 2016)

京都大学附属図書館,「和算の時代:日本人の数学力をたどる:平成15年度京都大学附属図書館公開企画展. 2003」, <https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/141905/1/wasan.pdf>,

(参照2023-12-25)